

平成28年度スタートに当たって!

今年度新たに大館市に赴任された先生方、ようこそ、本市にお出でくださいました。また、昨年まで「おおだて型学力」の向上にご尽力された先生方、今年度もどうぞよろしくお願ひします。

平成28年度のスタートに当たり、大館市が目指す教育について、みなさんと確認すると共に、昨年度の学校訪問から、さらに進化していくために考えてみたい点について触れたいと思います。



おおだて型学力

「おおだて型学力」は、自立の気概と能力を備え、ふるさとの未来を切り拓く総合的人間力であり、大館版の「生きる力」とも言えます。

これは、「人間的基礎力」を真ん中にして、「大館市民基礎力」、「大館市民実践力」と成長するにつれて膨らみを増す様相から成り立っています。

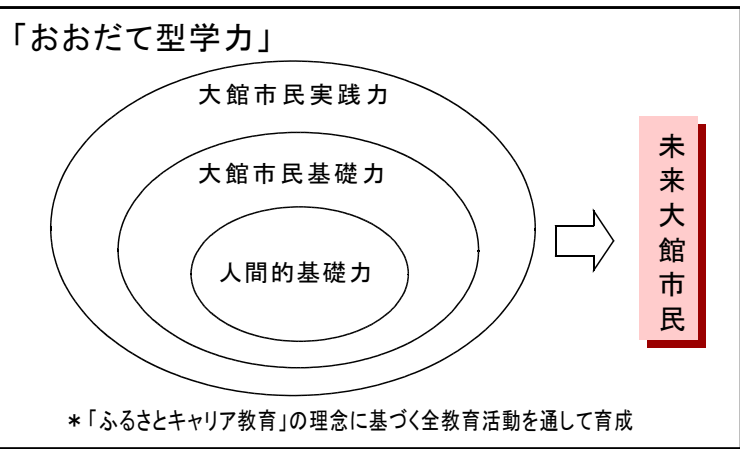
これらの力を身に付けることにより「未来大館市民」として将来の大館を支える大館人になってほしいと考えています。

また、これらの力を身に付けるためには、ふるさと教育とキャリア教育の理念を融合した「ふるさとキャリア教育」の理念に基づいて育成することが肝要です。

「大館盆地を教室に、市民一人一人を先生に」の言葉が示すとおり、学校だけでなく家庭や地域を巻き込んで未来大館市民を育成していきます。

このうち、学校では、それぞれの地域の特色を生かしながら（百花繚乱作戦）、また、各分掌ごとの会でも専門性を生かした重点研究項目を設けながら「おおだて型学力」の向上を目指しています。

では、普段の授業の中では、どのようにして「おおだて型学力」を身に付けていけばよいのでしょうか。私たちは、次の3つを視点として、「おおだて型学力」を鍛えていこうと考えています。



- ◆前に踏み出す力＝アクション …主体的に学ぶ授業
- ◆考え抜く力 ＝シンキング …思考力・判断力・表現力等を磨く授業
- ◆チームで働く力＝チームワーク…集団で学び合う授業

これらに順序性はなく、各校、各学年、各学級の実情に合わせて、課題となっている点を重点的に指導していくことが大事です。



昨年度も、各校を訪問させていただき、たくさんのすばらしい授業を見せていただきました。

子どもたちが生き生きと学んでいる姿を見ると、「おおだて型学力」の向上を目指して、先生方が深い教材研究を行っている様子がよく分かります。

昨年度の成果と課題のいくつかを掲載しましたので、今年度の授業の参考にしてください。

<成果>

- 導入での惹きつけがすばらしい。前のめりになって問題を把握しようとする子どもの姿が、特に小学校低学年で多く見られた。
- 子どもたちと共にめあて（課題）を作ったり、子どもたちの言葉でまとめをつくりあげていく授業が多く見られた。繰り返していくうちに、子どもたち自身がめあて（課題）とまとめの不釣り合いに気づき、自分たちで修正できている。
- 一人学びの時間がしっかり確保できている。また、ペアやグループで学ぶ場面、全体で話し合う場面など、学ぶべき内容、実態に応じて、形態を工夫しており、移動に無駄がない。
- 日ごろの学級経営のすばらしさが授業にも表れている。子どもたちが自分の考えや思いを伝えられる場面を設け、子どもたち自身でつなぐ授業が多くなってきた。人間関係が良好なため、互いに補完し合いながら、より高みを目指す子どもたちの姿が見られた。
- 振り返りの時間を確保しようとしている。今日学んだことが本当に身に付いたのかという学習の定着だけでなく、これまで分からなかったことが分かるようになった喜びや友達との関わりでできるようになった気づきを表現できている。
- 中学生の学ぶ姿勢が、前年度に比べ意欲的で、真剣である。小学校からの学びの積み重ねがあるのはもちろん、中学校の先生方の授業改善が進んでいる。

<課題>

- ◆話し合いや練り合いの際の教師のコーディネート力が話題になることが多い。すばらしい授業を見て、それをまねたり本を読んでそこからヒントを得たりすることはよいことだが、子どもたちの実態を見ないまま、型だけが先行してしまわないようにしたい。話し合いや練り合いにより、ねらいを達成させるための方向付けができているかや揺さぶりにより子どもたちが考えを確かなものにできているかなど、子どもたちの実態に合わせて工夫していきたい。
- ◆振り返りでは、子どもたちが振り返ることができる授業内容だったかが大切である。振り返りの視点を示す授業も多く見られるようになってきた。計画性をもち、形式的でなく、子どもたちが自分で成長を実感したり、次への学習につなげたりすることができるような振り返りを目指したい。